

# I LIKE IT

田口 静子調理師

人生いろいろ。  
笑笑…歌にもありますね。

親孝行したい時に、親はいない。  
主人と仲良く余生をきたたかった…。  
主人は、いない。人生いろいろ。

主人が大事に育てた花々。  
毎年、咲いてくれる蘭の花。  
葉っぱだけ。…ダイソーへ  
出かけ木苺と蘭の花の造花を  
買う。そっと葉っぱだけの蘭に  
差してみる。とてもいきいきした。  
部屋中が明るくなった。  
このちょっとした遊び心が  
こんなに明るくしてくれる。  
小さな幸せを大事にしたい。



人生いろいろ。時間もみな平等です。  
いつの間にか時間が経ってしまう場合もある。  
朝から一日のスケジュールをきっちり立てて過  
ごすときもある。60代後半…気が付けば人生  
後半に差し掛かってしまった。

走った!! 走り続けた!!



これからは、自分時間を大切に生きていきたい。  
目の前の事を楽しみながら、ときめき、  
自分のやりたかった夢に向かって諦めずに、  
生涯やり続けている自分でありたい。  
「小さな幸せ」探し。  
人生いろいろ。

## ウィズストーリー

春は新しい生活のスタートの季節。



4月から新しい世界に小さな一歩を踏み出す  
お子さまのいらっしゃるご家庭も多いのでは  
ないでしょうか。成長を喜びつつも心配も多いも  
の。そこで今回は新生活に備えて春休みにおす  
めしたい取り組みについてのお話です。

### ○ 早寝早起きの習慣作り

子どもが自分のペースで身支度や朝食をとる  
余裕があると「早く!」と焦ることも少なくなり  
ます。そのためにはまずは「早起き」が大切。  
起床時間を家を出る時間から逆算して設定しま  
す。熟睡時を避け、もぞもぞと体を動かし始め  
たらカーテンを開けて部屋を明るくして起こし  
ます。習慣になるまでは大変ですが、早起きが  
できたら忙しい朝の時間も余裕をもってお子さ  
まの気持ちに寄り添えるかもしれません。

### ○ おどろぐの整理と思い出を話そう

新学期を迎える前までにお道具のお手入れを  
しながらお子さまの園生活や学校生活に思いを  
馳せることでしょう。大好きな赤だけがたくさ  
ん無くなっていたり、決まってオレンジと水色  
が無くなっていたり、中にはまんべんなく同じ  
ように使うお子さんもいると思います。

わが子の姿が思い浮かび、減ったお道具を見  
て幸せな気持ちになる時間でもあります。お子  
さまを隣にぜひ使っている時のお話を聞いてみ  
てください。お子さまも楽しい振り返りができ  
、大好きなママやパパに話したことでポジティブ  
な気持ちになると新学期から前向きなエネルギ  
ーに変わって次の新しい環境でまた頑張れるの  
ではないでしょうか。



2026年  
3月号  
Vol.146

Free Paper  
Memorandum



With Your Smile

~愛情豊かなベビーシッターを雇いたい笑顔の家事お手伝い~

ACSA 全日本保育サービス協会

有限会社 ウィズ

〒346-0022

埼玉県久喜市下早見1125-33

TEL 0480-23-4196

FAX 0480-23-4099

https://withbaby-wish.com



一般社団法人  
日本育成子ども協議会  
Japan Child Upbringing Conference



多様な働き方実践企業



傍らにシナを作り可愛らしい声で擦り寄る。抱  
き上げようとするパッと飛びのく。猫の気まま  
さや魅力的な容姿、そのディティールが柔らか  
か愛らしい。

現代の子ども達はユニバースでメタバース。統  
一感が無いと不安だけど仲間とは共感しあえる  
よね。また、空想の世界に自身を投影してい  
て、憧れる推しのキャラクター(アバター)を  
自身と重ね、多様性も求める。一つの形に  
こだわらない。

「猫」ちゃん、君たちはアルファ世代の現  
代にマッチしている。ツンデレも好きだし、  
愛らしさは赤ちゃんと同じように守ってあげ  
たい気持ちにしてくれる。

今育てている子ども達も何か教えるという  
より、大人が子どもを見守って、その大人を  
変えてゆくの子ども達。リアルとバーチャル  
を行き来しながら常に変化してゆくのね。  
楽しくもあり不安感もあるけど。

★米田優子『大人の絵本時間 大人に  
こそ絵本を』はテーマは「大切な人との別れ」  
ウィズストーリーは春からの新生活におす  
めたい取り組みについてです。どうぞお楽しみに。

## 大人の絵本時間

～大人にこそ絵本を～

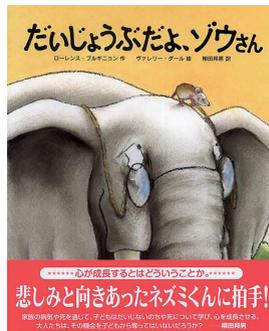
### 「大切な人との別れ」 学校図書館司書 米田 優子

絵本は短い言葉と絵の中に、人生の大切なテーマをそっとおいてくれます。今回は、大切な人との別れをテーマにした3冊をご紹介します。

1冊目は「ぶたばあちゃん」。一緒に暮らしてきた大好きなぶたばあちゃんの老いと旅立ちまでが悲しみをこらえて寄り添う孫娘の心情と共に丁寧に描かれています。

ぶたばあちゃんの最後は理想的です。本を図書館に返却し、預金口座からお金を全額引きだして口座を閉じ、全ての支払いを済ませ、最後に孫娘と散歩に出かけ、住んでいる町を満喫し全てやりきって旅立ちます。向こうの世界に持っていきものがあるとすれば、あの人とあんなことをして楽しかったなあ・・・という体験だけではないかと思っています。私も健康寿命を意識し、モノはもちろん、手放せないでいたコトの断捨離、そして何より好きな人たちと心が悦ぶ体験を重ねたいと思っています。

2冊目は「だいじょうぶだよ、ゾウさん」です。幼いねずみは、仲良く暮らしていた年老いたゾウが、橋を渡って森（あの世）へいきたいと願うことが受け入れられませんでした。やがて日に日に衰えていくゾウの世話をしながら、ねずみは成長し、ゾウの願いを受け入れ、ゾウが安心して森へ渡れるよう壊れた橋の修理をします。最後、逝く方も、見送る方も、互いの心に寄り添って「だい



母を見送る日が遠くないことへ思いを馳せます。加齢に伴う意欲低下や心身の不調、人生の捉え方の変化など長く生きることであるがママを娘に見せてくれているのだと感謝の気持ちがわいてきます。来るべき時がきたら「よく生きたね。だいじょうぶだよ、ママ」と声をかけられる自分で在りたいと思います。

3冊目は「3日ずつのおくりもの」。

子うさぎリトルの曾祖父ホープじいさんは、皆から毎年誕生日に3日余分に寿命をもらっていましたが、ある年DVDやCDに代わります。成長したリトルはホープじいさんの願いを誰よりも理解しました。長生きできること以上に満たされた人生として幕を引けたらいいなと思わせてくれる一冊です。

大切な人と別れの時は必ずやってきます。紹介した3冊は、大切な人との時間の尊さを改めて教えてくれます。もし大切な人との別れの時が近づいてきたら、あなただったら何をしてあげたいですか。

#### 今回の絵本

『ぶたばあちゃん』

作：マーガレット・ワイルド 絵：ロン・ブルックス

訳：今村葦子 出版社：あすなろ書房

『だいじょうぶだよ、ゾウさん』

作：ローゼンス・ブルギニョン 絵：ヴァレリー・ダール

訳：柳田邦夫 出版社：文溪堂

『3日ずつのおくりもの』

作：レミ・クルジョン 訳：こだましおり

出版社：文溪堂（品切れ重版未定）



じょうぶ」「すべてうまくいくよ」と言葉をかけ合います。柳田邦夫さんの訳が素晴らしいです。「物事を忘れる、メガネをかけても目が見えない、耳が遠くなってきた、せき込んでしまう」といったゾウが老いていく描写は、正に自分ごと。同時に92歳一人暮らしの

## 日常の中のハレの日

北原 清江保育士

朝はどうかこうにか子どもたちを送り出して出勤し、仕事が終わると長男が帰宅。その足で下の子たちを迎えに保育園へ。寄り道しながらやっと家にたどり着き、お風呂、夕飯、寝かしつけ。子どもたちが寝た後にあれとこれをやろう…、と考えているうちに寝落ちしてしまう。日々、朝から晩まで慌ただしく過ぎていきます。

そんな毎日ですが、ある日幸運にもひとりで美術館に行く時間ができました。画家・junaidaの原画展です。誰にも急かされることなく、自分のペースで歩き、立ち止まり、作品を眺める。

時計を見ることもなく、次の予定を気にすることもなく、ただ目の前の作品に向き合う時間は、とても久しぶりでした。作品一つひとつに目を向けるうちに、心がだんだんと元気になっていくのを感じました。また、日常生活の中で気づかないうちに埋もれてしまっていた自分の「これが好き」という感覚を思い出せた気がします。

この日は家事や育児から少しばかり離れ、大好きな作品を心ゆくまで楽しむことができ、まさに私の日常の中のハレの日そのものでした。そんなハレの日の存在が、日常を前向きに過ごすための原動力になっていると感じています。

